第65回日本臨床眼科学会
イブニングセミナー7

緑内障診断のゴールドスタンダードはこれだ!

日時 2011年10月7日(金) 17:00〜18:00

会場 第9会場(東京国際フォーラム ガラス棟7階 G701)

座長 **杉山 和久** 先生 (金沢大学大学院教授/金沢大学附属病院 副病院長)

緑内障診療の大きなポイントは、「早期発見」と「経過観察」です。特に緑内障は、治療の開始時期が予後に大きく影響することが知られているため、「早期発見」は重要なポイントですし、緑内障は超慢性疾患なので、長期経過観察は管理の上で大切です。

近年、OCTによって、構造については詳細なデータが得られるようになり、緑内障の診断に新たな情報を付加しました。しかし、乳頭形状を視覚的に観察し、陥凹の拡大やリムの消失、乳頭出血の有無を確認するには ステレオ眼底撮影は欠かせません。また、視野検査は、患者の視機能を直接評価する目的から、これまでと同様に不可欠であるといえます。緑内障の診断、病態の把握には、これらの検査から得られる視神経と視野の一致した特徴的変化を捉えることが重要です。

本セミナーでは、緑内障の「早期発見」と「経過観察」に的を絞り、新田先生には、緑内障の長期管理におけるステレオ眼底写真の意義と今後の可能性についてご講演していただきます。また、松本先生には「早期発見」の視点から視野計における日本人正常眼データベースの意義と眼底像視野計の可能性についてお話頂きます。なお、聴講の先生方には、ステレオメガネで、視神経乳頭の立体観察を体験していただけるように企画しています。

緑内障診療としては歴史の古い「ステレオ眼底」と「視野検査」ですが、「古いけど新しい!緑内障診断のゴールドスタンダード」というべき検査法です。どうぞご期待ください。

演題 1
『3分診療から3D診療へ —より質の高い緑内障診療を目指すために—』

演者 **新田 耕治** 先生 (福井県済生会病院眼科/金沢大学眼科)

演題 2
『自動視野計AP-7000の特徴と臨床的応用』

演者 **松本 長太** 先生 (近畿大学医学部眼科 教授)

共催 第65回日本臨床眼科学会
興和株式會社